

広報

あさひまち

ASAHI-MACHI

11

1994
NOV.
月号
NO.456

朝日町誕生40周年
特 集 号

わが町再発見⑨

美しい町並み
宮宿上空から撮影

なる飛躍と発展を誓う

周年記念式典



名誉町民志藤六郎氏より町に200万円の寄贈

朝日町誕生から四十周年を迎えた十一月一日、中央公民館において町民の代表者ら約百七十人が出席し、朝日町誕生四十周年記念式典並びに名誉町民表彰式が挙行されました。

はじめに町民憲章が唱和されたあと、清野町長が「歴代の町長を中心に、郷土愛に燃える諸先輩、情熱あふれる町民によって、今日の飛躍的な町勢発展を見ることができました。二十一世紀に向けて、さらなる町勢の発展と住民福祉の向上を目指して参ります。また、本日名誉町民の称号を贈り表彰いたします小林富蔵氏は、町長として四期十六年間を含む、通算三十九年六ヶ月の長きにわたり、町振興発展のため敏腕をふるわれ、住民福祉の向上に尽力されました

ことは、衆目の一致するところ
です。大胆率直、決断力に富み、
卓越した識見と指導力は高く評
価されています」と式辞を述べ
るとともに、小林氏の功績を讃
えました。

これに対し名誉町民の称号を
贈られた小林氏は、「栄えある名
誉町民として表彰を受けました
ことに、感激をし感謝申し上げ
ます。この功は町民のみなさん
の心からなるご協力とご支援の
賜物であり、町民皆様方のもの
であると思っております」と感
謝のことばを述べるとともに、
約四十年の長きにわたり活躍さ
れた、当時の町づくりについて
感慨を語られました。

続いて、名誉町民の志藤六郎
氏（横浜市在住）から、「特別養
護老人ホームふれあいの里施設
整備に役立ててほしい」と、二
百万円が町に寄贈されました。

また、町づくり提言優秀作品
（広報あさひまち10月号に掲載）
の発表も行われ、小学生三人よ
り将来の町づくりに対する力強
い提言がなされました。

その後の祝賀会では、勇壮な
角田流大谷獅子踊が披露された
あと、ワインで乾杯。参加者た
ちは、昔の思い出や町の将来な
どを語り合い、町のさらなる飛
躍と発展を誓い合いました。

未来に向かって さらに 朝日町誕生40

前町長 小林富蔵氏が名誉町民に



九月定例議会において、満場一致で名誉町民に決定された前町長の小林富蔵氏（大沼）の表彰式が、町誕生40周年記念式典において行われました。
三十九年六カ月の長きにわたり、朝日町の振興発展に尽力され、住民の福祉の向上に多大に貢献された功績により、名誉町民の表彰を受けられたもので、五人目の名誉町民になりました。

◆ 略 歴

大正7年6月17日生
昭和13年3月 山形県立山形工業学校機械科卒業
同21年9月 大谷村農地委員会専任書記
同23年9月 大谷村公民館長
同28年4月 大谷村教育委員会委員長
同29年11月 朝日町教育委員会教育長
同44年5月 朝日町助役
同51年12月 朝日町長
同58年6月 山形県老朽溜池等整備事業促進協議会長
平成3年2月 山形県市町村退職手当組合長
同4年12月 朝日町長退任
同6年11月 朝日町名誉町民（第5号）

◆ 表 彰

昭和20年9月 正七位
同23年3月 勲六等瑞宝章（軍功）
同42年6月 山形県町村会長表彰（自治功労）
同47年2月 全国町村会長表彰（自治功労）
同60年10月 法務大臣表彰
平成5年10月 日本赤十字社金色有功章
同5年11月 勲五等旭日章

朝日町誕生40周年にあたって

朝日町長 清野 隆



菊花香る秋冷の今日、ここに多くのご来賓のご臨席をいただき、町を挙げて記念式典を挙行できますことはこの上もない慶びとするものであります。

昭和二十九年十一月一日、自然豊かな朝日連峰のふところに抱かれた宮宿町、西五百川村、大谷村の二町二村が大同団結してわが朝日町が発足し、その間幾多の試練に遭遇しましたが、先人たちの英知と町民各位の町政に対する深い理解と協力、並びに県をはじめとする関係各位の強力なご指導とご支援により、その試練を克服し今日の朝日町があるものと厚く感謝申し上げます。

合併当時は、道路交通網をはじめとする生活環境の整備、農業生産基盤の整備、企業の誘致など就労の場の確保等の課題も多く、歴代町長各位、諸先輩の郷土愛と一途な町づくりへの情熱により、改良舗装による道路交通網の整備、町立病院の開設、上水道の整備、認可保育所の設置、企業の誘致、家族旅行村「朝日自然観」の建設など今日の飛躍的な町勢発展を見ることができました。反面、時代の大きな流れに逆らえず、人口の流出や高齢化が著しく、若者をはじめとする定住対策が急務となっております。

この時に当たり、第三次基本構想に掲げています「地球にやさしい活力のまち」「楽しい生活環境観・エコミュージアムのまち」を町づくりの基本理念として、高齢者の総合福祉対策としてのふれあいの里整備事業、中山間地農業形態の確立、河川に清流を取り戻し快適な生活環境を整備する小型合併処理浄化槽の設置推進、定住環境整備のための分譲宅地の造成、町営住宅の建設等、農、工、商、観が一体となった町づくりを推進し、二十一世紀に向けて更に町勢の発展と住民福祉の向上を目指し、町民各位と共に邁進する決意を新たにしているところであります。

最後に、町民の皆さんのご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げあいさついたします。

朝日町誕生40周年を迎えて

朝日町議会議長 佐竹 薫



朝日町誕生四十周年の佳節を迎え、町議会を代表しここからお祝いを申し上げます。この記念すべき年を迎えることができましたのも、諸先輩をはじめ町民各位の献身的なご努力とあたたかいご理解の賜物と、深く感謝申し上げます。

ふりかえってみますと、新生朝日町のいしずえを築いた草創期以来、厳しい財政状況のなか、町民の英知と力を結集して幾多の困難な行政課題を克服しながら、町の発展に懸命にとりくんだ四十年間ではなかったかと思えます。

二十一世紀を目前にして、高齢化社会の到来や国際化、情報化の大きい波が押し寄せている今日、先人の偉大な足跡を忘れる事なく行政と町民がさらに一体となって夢と希望あふれるまちづくりにとりくむことが責務であると痛感いたします。

町民皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、朝日町の限らない発展と皆様のご健康をこころよりご祈念申し上げごあいさついたします。

40年を振り返る

朝日町のあゆみ



上郷ダム発電所建設（昭和37年完成）



昭和30年当時の昭和橋
（昭和36年には永久橋に架け替え）



（宮宿中心街・昭和37年）

昭和29年

- ・朝日町誕生（宮宿町・西五百川村・大谷村合併）
- ・第一回町議会開催（初代議長鈴木幸次郎氏当選）
- ・初の町長選挙、村山善一郎氏当選

昭和30年

- ・町連合青年団結成（団長菅井信夫氏）
- ・町連合婦人会発足（会長布施なかつ氏）
- ・針生地区が朝日町から分村、白鷹町に合併
- ・水本小学校現在地に移転

昭和31年

- ・町農業共済組合設立
- ・朝日川電源開発に着手（起工式）

昭和32年

- ・宮宿小及び高校朝日分校体育館完成
- ・朝日音頭つくられる
- ・都市計画（宮宿中心街）事業に着手

昭和33年

- ・町立朝日病院完成（開院）
- ・第一回町民登山行われる

昭和34年

- ・大谷地区に水道完成
- ・朝日川第一発電所完成

昭和35年

- ・婦人消防クラブ結成なる
- ・木川地区に電灯が入り、無灯火地区解消

昭和36年

- ・朝日川第二発電所完成
- ・最上川電源開発推進委員会が結成

昭和37年

- ・森林組合が合併
- ・昭和橋、永久橋に架け替え

昭和38年

- ・太郎に簡易水道完成
- ・誘致企業第一号皿屋缶詰工場完成

昭和39年

- ・朝日岳でインターハイ登山大会
- ・上郷ダム発電所完成
- ・村山町長退職、鈴木幸次郎氏（宮宿）が町長に当選

昭和39年

- ・議員定数削減後、初の町議選行われる
- ・町章を制定する

昭和39年

- ・町誕生10周年記念祭行われる
- ・明治以来の大霜害発生

昭和39年

- ・二見橋が永久橋に架け替え
- ・太平橋（つり橋）が完成

昭和39年

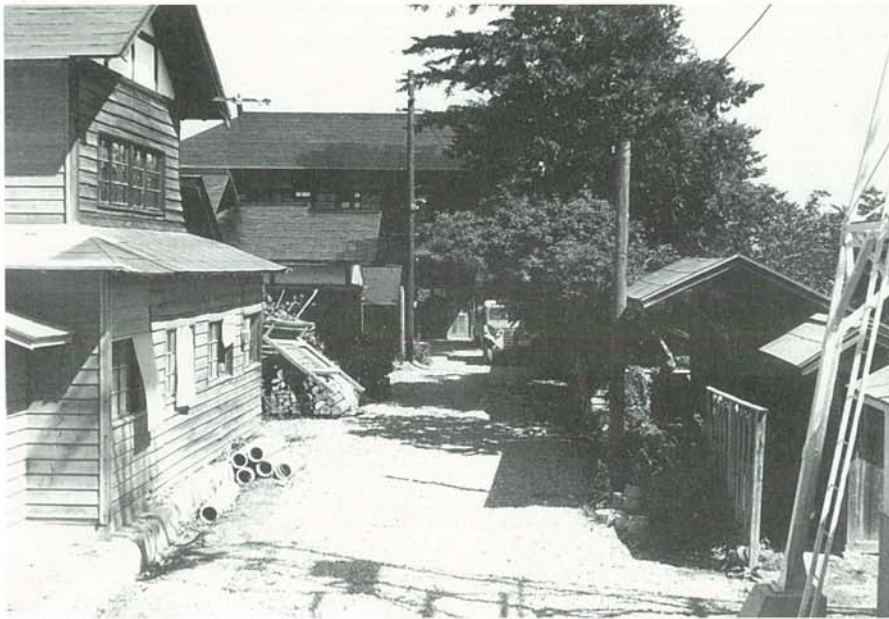
- ・町広域水道事業に着手



朝日町誕生10周年を祝うパレード (昭和38年)



羽越豪雨により最上川大洪水 (昭和42年)



町づくりの拠点だった旧庁舎



都市計画街路事業

昭和40年

- ・石須部橋が完成 (山新3P賞受ける)
- ・豊龍神社の大杉、県天然記念物指定
- ・町芸術文化協議会結成される
- ・村山善一郎県議逝去
- ・故村山善一郎氏に名誉町民の称号贈る

昭和41年

- ・北部公民館が完成
- ・広域簡易水道完成
- ・NHK朝日テレビ中継所が完成

昭和42年

- ・送橋小に町内初のプール完成
- ・羽越豪雨により最上川大洪水 (被害額十億円をこえる)

昭和43年

- ・高校朝日分校体育館完成
- ・明治百年記念祭行う
- ・熊谷謙三郎博士、鈴木清助氏の両氏に名誉町民の称号贈る

昭和44年

- ・農村地域集団電話完成
- ・志藤武志氏町長に当選
- ・三保育所認可保育所となる
- ・第一回ダム祭り開催

昭和45年

- ・山形朝日電話局完成
- ・県道左沢米沢線、国道に昇格 (二八七号)
- ・林業構造改善事業に着手
- ・西部公民館改築

昭和46年

- ・企業誘致すすむ (六月丸吉・十二月朝日相扶)
- ・木川分校閉校
- ・阿部武夫氏 (今平) 県議選で当選

昭和47年

- ・朝日町過疎地域の指定受ける
- ・役場庁舎及び開発センター完成
- ・杉山地区簡易水道完成
- ・第二次農業構造改善事業に着手
- ・西村山広域行政事務組合発足
- ・北部保育所完成

昭和48年

- ・全国広報紙コンクールで「広報あさひ」全国第一位となる



広域老人ホーム「明鏡荘」完成（昭和49年）



一ツ沢地区閉村、分校閉校（昭和48年）



朝日町誕生20周年を祝う仮装パレード（昭和49年）

昭和49年

昭和50年

昭和51年

昭和52年

昭和53年

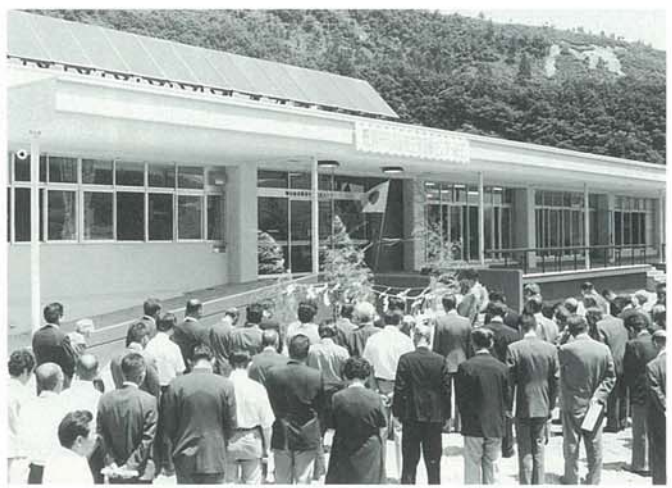
昭和54年

昭和55年

- ・過疎基幹農道に着工
- ・町民体育館完成
- ・一ツ沢地区閉村、分校閉校
- ・内陸循環線促進期成同盟会設立
- ・朝日町総合開発基本構想策定
- ・統合中学校敷地造成に着手
- ・広域老人ホーム「明鏡荘」完成
- ・町誕生20周年記念祭行う
- （町の木「ブナ」、町の花「ヒメサユリ」制定）
- ・朝日分校美術クラブ全国学芸コンクールで日本一に
- ・町内三農協合併し朝日町農協としてスタート
- ・町民憲章制定する
- ・農村総合整備モデル事業に着手
- ・最上川中流水利事業古楨工区でガス爆発事故発生
- ・朝日分校独立期成同盟会設立
- ・小林富蔵氏町長に当選
- ・朝日中学校開校
- ・ワイン工場完成
- ・交通死亡事故ゼロ記録一、〇〇〇日達成
- ・大谷甚六会結婚式二〇〇組達成
- ・白田要右エ門氏（大谷）に県産業賞贈られる
- ・全国学芸コンクールで朝日分校の佐藤博司君が内閣総理大臣賞受賞
- ・白倉スキー場オープン
- ・西部保育所完成
- ・北部体育館、町民武道館完成
- ・暴風災害発生（被害五億円）
- ・高齢者生産活動センター完成
- ・ナイター施設完成
- ・名誉町民鈴木清助氏逝去
- ・大船木橋完成
- ・県青年大会を朝日町で開催
- ・水本小体育館落成
- ・電話町内完全自動化なる



五百川橋完成（昭和58年）



高齢者生産活動センター完成（昭和54年）



昭和53年当時の西部保育所
かもしかクラブ



最上川中流農業水利事業古楨工区（トンネル）でガス爆発事故発生、
9名が死亡（昭和51年）

- | | | | | | | | | |
|--|---|--|---|--|---|---|---|---|
| 平成元年 | 昭和63年 | 昭和61年 | 昭和62年 | 昭和60年 | 昭和59年 | 昭和58年 | 昭和57年 | 昭和56年 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族旅行村「朝日自然観」グラウンドオープン ・ 八天橋完成開通式 ・ 町誕生35周年記念式典 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 水本小学校舎完成 ・ 西五百川小グラウンド完成 ・ 山村留学制度発足 ・ 馬神ダム整備工事完成 ・ 山形朝日電報電話局、寒河江電報電話局へ統合 ・ 秋葉山グラウンド完成 ・ 町営路線バス立木白倉線運行開始 ・ 朝日町行政改革実施計画書策定 ・ 山形朝日電報電話局、寒河江電報電話局へ統合 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康増進センター完成 ・ 国際結婚にてフィリピンから四人の花嫁さん来る | <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝日町立病院改築始まる ・ 町誕生30周年記念式典 ・ （町の動物「カモシカ」、町の鳥「ヤマガラ」に制定） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 第二次朝日町総合開発基本構想策定 ・ 大沼地滑り災害発生する ・ 朝日町ママさんソフトボールチーム県大会で優勝（全国大会へ） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 第一回最上川激流イカダ下り大会開く ・ 五百川橋完成 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 清水ハイッ完成 ・ 送橋小完成 ・ 一ッ沢自然観察センターオープン ・ 第一回溪流まつり開催 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 上郷小完成 ・ 第一回ワイン祭り開く ・ 白倉緑地等管理中央センター（ロッジ）完成 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 宮宿小完成 ・ 名誉町民熊谷謙三郎博士逝去 ・ 東京連絡事務所開設 ・ 大谷集落排水処理施設完成 |



世界に類例のない「空気神社」完成（平成2年）



朝日自然観完成（平成元年）



宮宿中郷住宅団地の造成工事始まる（平成5年）



国際エコシンポジウム開催（平成4年）

平成2年

- ・空気神社完成
- ・「地球にやさしい町」宣言を議決

- ・朝日自然観を会場に北川環境庁長官を招いて「空気まつり」開催

- ・第十二回全国消防操法大会に第一分団第一部出場

- ・近藤洋子さん（栄町）に初の町民栄誉賞贈る（第二十九回全日本女子剣道選手権大会で優勝）

平成3年

- ・立木小新校舎完成

- ・第三次朝日町基本構想・基本計画策定

- ・朝日町ワインのオーナー制度始まる

- ・「りんご温泉」と「朝日町農業研究所」完成

平成4年

- ・人材養成事業F21プロジェクトスタート

- ・山形地方法務局朝日出張所が寒河江支局に統合

- ・西部公民館落成

- ・新規学卒者に定住奨励金交付制度始まる

- ・国際エコミュージアムシンポジウム開催

- ・町民プール完成

- ・志藤六郎氏（栗木沢出身）町に一億円寄付

- ・第四十七回国民体育大会へにばな国体「デモスポ壮年ソフトボール大会」開催

- ・志藤六郎氏に名誉町民の称号贈る

- ・清野隆氏町長当選

- ・鈴木正典氏（栄町）に町民栄誉賞贈る（ヒマラヤ未踏峰ピラミッドピーク七、一二三に初登頂）

- ・冷害による稲作被害

- ・菅井功氏（沼向）中国政府より「友誼奨章」授章

- ・空気神社第一回地球賞受賞

- ・山形朝日農協が「さがえ西村山農協」に合併

- ・町誕生40周年・空気の日記念事業「最上川エコシンポジウム」開催

- ・町誕生40周年記念式典

- ・小林富蔵氏（大沼）に名誉町民の称号贈る

平成6年

40周年記念行事も多彩に開催

町出身者の作品展示会や日本舞踊など

十一月一日の前後には、町誕生四十周年と第三十回芸術文化祭を記念して、多田拓生展、阿部功雲「奥の細道」版画展、若柳由美香「舞の会」、山形交響楽団演奏会、佐藤祐豪書道展、打田早苗スケッチ「童歳時記」展、あさひ十人会・展など、さまざまな催事が開催され、各会場とも大勢の人でにぎわいました。



長沼出身の版画家・阿部功雲さんの「奥の細道」をテーマとした版画と拓本の作品、約20点を展示



長沼出身の日本舞踊家・若柳由美香さんと柳香会の皆さん総出演の日本舞踊の夕べ



本町出身のグラフィックデザイナー・多田拓生さんのデザインポスターや絵画・約60点を展示



町内の有志者による刺し子や織物などが展示された「あさひ十人会・展」

平成6年度 朝日町教育功労者表彰



受賞者のみなさん

町教育委員会より十月十三日、町の教育の分野で長年にわたり貢献されたみなさんに、教育功労賞が贈られました。受賞された方は、次の十六人のみなさんです。おめでとうございます。

小関恵美子氏（栄町）

教員として三十一年、その間十二年間にわたり町立学校に勤務し、児童・生徒の教育をはじめ、地域文化の向上と教育の振興に貢献されました。

菅井 進氏（沼向）

昭和五十五年から文化財保護委員、昭和六十三年より六年間にわたり、同委員長に就任。特に埋蔵文化財の発掘調査に尽力され、文化財の保護と活用に貢献されました。

大井忠夫氏（太郎三）

昭和五十一年より十八年間にわたり、西部公民館運営審議会委員並びに同委員長を歴任。自治公民館活動の推進と、社会教育の振興に貢献されました。

大井重太郎氏（常盤）

昭和五十七年より十二年間にわたり、西部公民館運営審議会委員として、自治公民館活動の推進と、社会教育の振興に貢献されました。

鈴木和美氏（四ノ沢）

昭和五十七年に青年団に入団し、平成三年より三年間町連合青年団長に就任。青年団活動の中心となって活躍し、青年の意識向上に貢献されました。

小松好徳氏（山形市）

十二年間にわたり立木小学校の行事等を撮影し、写真集「田

植えのある学校」を出版。移り行く山村と教育のあゆみを、県内外に紹介されると共に、生涯学習の指導者として貢献されました。

鈴木正己氏（松程）

昭和四十一年より二十八年間にわたり、体育指導委員として活躍。グループの育成、スポーツの普及と社会体育の振興発展に貢献されました。

白田 進氏（大谷一）

昭和五十一年より十八年間にわたり、体育指導委員として活躍。グループの育成、スポーツの普及と社会体育の振興発展に貢献されました。

長岡幹男氏（本町）

昭和六十一年より八年間にわたり、体育指導委員としてグループの育成、スポーツの普及と社会体育の振興発展に貢献されました。

清野修二氏（四ノ沢）

昭和六十一年より八年間にわたり、体育指導委員としてグループの育成、スポーツの普及と社会体育の振興発展に貢献されました。

岡崎正志氏（下芦沢）

昭和五十九年より十年間にわたり、宮宿ミニバスケットボールスポーツ少年団の指導者として活躍。子供達の健全育成と社

会体育の振興発展に貢献されました。

花山忠夫氏（栄町）

昭和五十九年より十年間にわたり、宮宿剣道スポーツ少年団の指導者として活躍。子供達の健全育成と社会体育の振興発展に貢献されました。

川口幸男氏（大暮山）

昭和五十九年より十年間にわたり、白倉スキースポーツ少年団の指導者として活躍。子供達の健全育成と社会体育の振興発展に貢献されました。

鈴木憲二氏（西船渡）

昭和五十九年より十年間にわたり、朝日卓球スポーツ少年団の指導者として活躍。子供達の健全育成と社会体育の振興発展に貢献されました。

阿部和歌子氏（寒河江市）

教員として三十三年、その間二十年間にわたり町立学校に勤務し、児童・生徒の教育をはじめ、地域文化の向上と教育の振興に貢献されました。

斉藤英一氏（山形市）

十二年間にわたり立木小学校の行事等を撮影し、写真集「田植えのある学校」を出版。移り行く山村と教育のあゆみを、県内外に紹介されると共に、生涯学習の指導者として貢献されました。



清野町長より就職祝金を受けとる新規就労者

知事のふれあいトーク 朝日町で開催

県民の声を県政に反映させようと、「知事のふれあいトーク」が10月11日、中央公民館で開催されました。

この日は町民約百人が参加。はじめに県政報告を含めて、高橋知事からあいさつがありました。

その後、参加者から果樹栽培新規就農者に対する経済的援助や道路整備、小売業にかかわる有利な資金融資制度の拡充、最上川の清流とりもどし、高齢化社会に伴う就労者への介護支援策など、より良い県政にするために、貴重な意見や要望が出されました。

これに対し高橋知事は、これらのことについて真剣に聞き入るとともに、相手に語りかけるように、ていねいに対応されていました。



参加者と直接意見交換をする高橋知事

就職祝金を交付

昨年より11人多い54人に

新規学卒者の就労者に対する就職祝金交付式が十月十八日、中央公民館で行われました。

この就職祝金制度は、できるだけ多くの若者に朝日町に定住してもらおうと、平成四年度にスタート。町内就職者には十万円、町外就職者には五万円が交付されるものです。

今年の対象者は町内十八人、町外三十六人の合計五十四人で昨年より十一人多くなっています。当日は清野町長より一人ひとりに交付証書と祝金が交付さ

れました。これに応え、新規就労者を代表して鈴木美和子さん（殖産銀行寒河江支店勤務・和合）が「大学で都会に出てみて、改めて朝日町の良さが分かりました。私たちが行うすべてが朝日町の看板であるという意識を持ち、今後ともがんばっていきたい」とお礼の言葉を述べました。

また、お祝いに駆けつけた事業主の方から激励の言葉を受け、期待に胸をふくらませていました。

双葉団地集会所が完成

地区民待望の双葉団地集会所がこのほど完成し、落成祝賀会が十月十九日行われました。

これまで双葉団地には集会所がなく、一日も早い建設が待たれていたもので、当日は双葉団



地区民や町関係者、工事関係者ら約三十人が出席し完成を祝いました。

清野町長が「研修・研鑽・交流の場として大いに活用していただきたい」とあいさつ。つづいて双葉団地区民の代表者が「このようなりっぱな施設ができて、大変喜んでいきます。この施設を利用し、住み良い団地づくりに努力していきます」と感謝の言葉を述べました。

この集会所は、地域間交流施設として事業費二百十四万円で完成。床面積が一四〇・一三平方メートルの木造平屋建となっており、地域づくりの拠点として大いに期待されています。

十月の入札結果

主な工事の請負者、落札価格（消費税抜き）は次のとおりです。

【建設課】

・町道白倉線丈量測量業務委託
一、〇六〇万円

【水道事業所】

・水道管路近代化推進工事（大

谷地内）

三、一〇〇万円 大東建設（株）

【企画商工観光課】

（土地開発公社事業）

・第二期宮宿中郷地区宅地造成工事
五、五四〇万円 大東建設（株）

・大谷地区宅地造成工事
四、六〇〇万円 村山建設（株）



沢内チームが優勝

第11回アップル町民駅伝

さわやかな秋風の吹く十月十日、第十一回アップル町民駅伝大会が町内一周の十三区間、三一・九歳のコースで熱戦が繰り広げられました。

大会には小学生から壮年まで百八十二人の選手、十四チームが参加。地区対抗とあって、各

チームとも優勝をねらい連日練習に励んできたもので、当日は大勢の人たちが応援に駆けつけました。

いよいよ午前九時に役場前をスタート。序盤戦はトップがまぎらわしく入れ替わる大混戦。そんな中を抜け出したのが和合チームで、第九区からリードする形で展開されました。しかし、地力に勝る沢内チームが、最終区で和合チームをかわし、そのままゴールに飛び込み、見事に優勝を飾りました。

■成績

①沢内（1時間56分9秒）

②和合（1時間59分29秒）

③上郷（1時間59分38秒）

■区間賞（一）はチーム名

安藤秀也（上郷）・阿部義春（沢内）

海藤和江（常盤）・鈴木好廣（和合）

熊谷明子（宮宿）・菅井道也（和合）

海野裕喜（沢内）

長岡和久（大沼・大暮山）

若月哲也（三中）

佐藤怜奈（和合）

石黒 宏（松程）

長岡利幸（上郷）

海野宏行（沢内）



公共施設のクリーン作戦

中学生が病院を清掃

中学三年四組のみなさんが十月十四日、病院のガラス磨きや空き缶の整理を行いました。生徒たちは入院患者さんに「早く良くなってください」と声をかけ、一生懸命に清掃していました。すっかりピカピカになったガラス。入院患者さんは「さすがらしい気分です。病気も早く直りそう」と笑顔で語っていました。このクラスは、他にも町体育館の清掃や明鏡荘の草取りもしてくれました。

宇津野／

村山 武史くん

（上郷小3年）

雄輝くん

（上郷小1年）

おじいちゃん

昭一さん（66歳）

おばあちゃん

きみさん（64歳）



わたしのおばあちゃん

ほとくのおばあちゃんは、ぼくが学校から帰ると、テーブルの上におやつをのせておいてくれます。けん道の時は、おくれても、あたたいこはんを作って、まっついてくれます。だから、ほとくも牛にごはんを食べさせたり、夜にはさらあげをして手つたいます。おばあちゃんが、「かたもんでけろ。」と言うときは、かたをもんであげます。いつまでも長生きしてください。

—武史—



町民の

このひろばはみなさんのページです。話題やご意見、作品など、ご自由にお寄せ下さい。

ひとことトーク

古式銃の研究は 私の生涯学習

～森重流古式砲術の指南～



永井正之さん
(元町)

昭和二十一年、米軍将校に初めて米国の古式銃を見せてもらったのが、私と銃との出会いでした。森重流砲術を志して始めたのが二十数年前で、現在は森重流古式砲術の指南および古式銃の修理をやっています。ヨーロッパに日本の古典文化、芸術、武道などを紹介するため、一九八九年に東京武道館の古武道メーンバーとして、ベルギーで古式銃砲術の演武を行ってきました。東京から朝日町に移り住んで一年、心のあたった人ばかりで助かっています。真剣に古式銃砲術をやる気のある人がいれば、いつでも教えます。

一ツ沢のうまい水と朝日町の空気を使って、無添加のペーコン作りをしています。うまいペーコンを作り続けるためにも、きれいな空気と水を、次世代に残していきたいですね。

ふくさと 人国記 55

鈴木定四郎

町消防団発展に尽した人



和合の家並みの西を流れる最上川は、昔と変らないように見えるが、流れの音はすっかり変わってしまった。昔の瀬音は、あるときは子守唄のように、あるときは交響曲のように、心をなぐさめてくれたものであった。明治四十一年九月二十九日、和合小原の鈴木定治・みね夫婦の長男として生れた定四郎は、最上川の流れる音を聞きながら大きくなった。

昭和十四年四月宮宿消防団副分団長となり、以来、消防団一筋の道を歩むことになる。昭和十九年に舞鶴海兵団に入隊するが、翌年終戦となり復員。昭和二十二年には宮宿町警防団の副

団長となる。二十四年には宮宿町消防団の団長となり、昭和二十九年十月までの五年間、誠意をもってつとめあげる。

同年十一月に合併した朝日町の初代消防団長となるや、火災や豪雨時には陣頭に立ち、特に消防自動車の早期導入と婦人防火クラブの結成に力を尽くすのである。

昭和四十三年七月までの十四年間、消防団長としての道程はきびしいものであった。

昭和四十二年二月、内閣総理大臣より藍綬褒章を授与され、さらに昭和五十三年五月には、勲五等瑞宝章を受賞、宮中で天皇陛下拝謁の栄に浴した。九月六日、朝日町中央公民館で祝賀会がにぎやかに開催され、朝日町消防団の基礎づくり尽した彼の功績をほめたたえた。

平成六年九月二十八日午前十時半、秋風に包まれて偉大な生涯を終える。享年八十七歳。

文・杉ひさし

600人の大パレード

交通安全町民大会



思い思いのプラカードを掲げ、交通安全を呼びかけた大パレード

交通事故をなくそうと、交通安全町民大会が十月十七日行われ、約六百人が宮宿中央通りをパレードし、交通安全を呼びかけました。

町内の事故発生件数が昨年に比べ約三倍に増えていることから、町交通安全推進協議会が主催し開催されたものです

当日は、保育園から小学校や小中学校、交通安全母の会、町議会、区長会、長寿クラブ、交通安全協会、安管連、県警音楽隊など約六百人が参加。宮宿小学校前で出発式が行われた後、「飛び出し注意」の手づくりのみこしや「やさしさ」を人にも道にも車にも「一杯で狂うあなたの腕とカン」など、思い思いのプラカードを掲げ、役場までの約一歳にわたって、約六百人の大パレードを繰り広げました。

役場前での大会では、清野町長や斎藤寒河江警察署長が「朝日町から交通事故を追放しよう」「交通安全の輪をひろげよう」とあいさつ。宮小五年の渋谷真紀子さんが「交通事故にあつてからでは遅い。自分の身は自分できちんと守っていききたい」と、力強く決意表明しました。また、県警音楽隊がクレヨンしんちゃん主題歌「おらは人気者」など四曲を演奏。さらに交通安全母の会の踊りも披露され、大会を盛り上げていました。

ぶどうの木オーナー ワイン収穫祭を楽しむ



「ぶどうの木オーナーワイン制度」の収穫・仕込み祭が10月23日、朝日町ワイン工場で開かれました。この制度は、これまでの限定醸造ワインのオーナー制度をさらに充実させ、今年初めて募集したものです。

この日は、仙台や八王子、大阪などから、オーナー96人とその家族ら約300人が参加。ぶどうがなっているのを初めてみる人も多く、自らの手で収穫することに感激した様子で、220本の白ワイン用シャルドネ種を、一房ずついいねいにもぎ取っていました。また、「甘いぶどうだね」「このぶどうでどんなワインができるか楽しみねー」と、数年後にできるプライベートワインに、期待を膨らませていました。



米町／
布施秀樹さん
美香さん



カラオケ番外地にお互い友だち同士で飲みに行き、偶然に出会ったという2人。お互いのグループが意気投合し、カラオケを歌ったりダンスをしたりと、大いに盛り上がったとのこと。

その時、美人の美香さんに一目ぼれした秀樹さんは、美香さんの電話番号を聞き出すことに成功。それからというもの毎日のように、東京に住んでいた美香さんに電話でラブコールを送った。何も知らない家族が今までの数十倍の電話代を見てびっくり。しかし、事情がわかるとさっそく応援してくれたとのこと。

秀樹さんはバレーボール、美香さんは剣道2段とスポーツが得意。ちなみに「どんな家庭をつくりたい?」の質問に、「子供をたくさん作って、家族みんなでスポーツを楽しみたいです」と、にっこり笑顔で答えてくれました。おしあわせに!



宮宿小学校の歴史を語る石の孝子橋

現在宮宿小学校の旧校門のところにひっそりと「孝子橋」がかかっている。「孝子橋」について明治四十三年の学校沿革誌によると、布施福治氏（現在前田沢布施兼松氏の祖父）が中年の頃、父福次郎氏が「リュウマチス」にかかり身体が失なわれた。十数年間病床の父をよく看護し、不快な顔も見せず時の折貧しい財布から父の好きなものを求めて与えたり、夜は父の

好きな講話を読み聞かせたり、花時には父を背負い花を見せるなど病に苦しむ父を慰めた。郷土の人々はその徳行に感心し、後々の子弟にその徳行をしたわしめるために、石工業をしていた福治氏に本校の門前に石橋をかけさせ、「孝行橋」（明治四十三年十月落成）と名づけた。このことが時の知事に達し、孝子として表彰されたので「孝子橋」といわれるようになった。この孝行の精神は、今なお大町区民の心に息づいており、区のシンボルとして、孝子橋を守りつづけている。

（鈴木正己広報委員）

ふるさとめぐり
〈51〉

親孝行の布石を 残した孝子橋

大町

94歳の作品展

柴田さくさん（四ノ沢）

90歳の誕生日にひ孫よりジグソーパズルのプレゼント。これがきっかけとなり、今日まで50点以上の作品を仕上げた柴田さくさん（四ノ沢・94歳）の「ジグソーパズル展」が、10月7日から4日間にわたり中央公民館で開催されました。

会場には、富士山や金閣寺などの見事な作品約30点が展示されました。柴田さんははもとと器用で、こまい仕事の好きなおばあちゃん。2年前には3,000ピースの大きな作品を仕上げ、「私の作品」というテレビにも出演した実績の持ち主。訪れた人たちは「いやー、じょうずだね」「これはすごい！」と、94歳のすばらしい作品に感嘆の声をあげていました。

このジグソーパズル、もしかしたら柴田さんの「長寿の秘訣」なのかもしれませんね。



ソプラノ歌手 今井さん（前田沢）が熱唱 山形交響楽団演奏会



山響をバックに今井さんの情感豊かな歌声が満員の聴衆を魅了

朝日町誕生四十周年を記念した、山形交響楽団演奏会が十一月五日、農業団地センター大ホールで開催されました。この演奏会は、町芸術文化協会の協力を得て実現したものです。朝日町での交響楽団の演奏会はひさしぶりで、さらに地元の世界的な声楽家、今井倭子（しづこ）さんも出演するとあって、心待ちにしていた人も多く、前売り券は早々に完売する人気。当日は約六百人の町民が

詰めかけました。

今井さんは交響楽団をバックに「アヴェ・マリア」「荒城の月」「この道」など、イタリアや日本の歌を熱唱。会場から盛んな拍手をうけ、アンコールに応えていました。

交響楽団は、モーツァルトの最後の交響曲「ジュピター」やビゼーの「カルメン」、最上川舟唄などを次々に演奏。荘厳な響きが会場全体を包み、満員の聴衆を魅了していました。

国際家族年に思う

家族から始まる小さなデモクラシー

『国際家族年』この言葉を何度となく聞き、講演も何回か聞くチャンスがありました。そのたびに、新たな感動と、意識の改革の必要性も感じさせられました。ごく身近な家族を、これを機会にみつめてみましょう。



子供たちも応援にかけつけ、なごやかな雰囲気(ビーチバレーボール大会)

『国際家族年』

てなーに？

国際家族年にめざすもの

これは国連で、すでに五年前に社会の様々な背景をもとにとりあげられ、今年一九九四年を、国際家族年として宣言したものです。この背景とは、一九六〇年代以降の世界的な経済成長によって、社会が大きく変わりました。女性の社会進出、高学歴化、高齢化、少子化、家族制度のくずれによる核家族化があげられます。そして、目まぐるしい社会の変化がもたらす弊害が、子ども、女性、高齢者、障害者に集中していることに着目し、社会全体で改革していこうというものです。

一つには『家族から始まる小さなデモクラシー』、これは家族年のスローガンとして上げられたものですが、家族の中に民主主義を確立しようということなんです。家族の一人ひとりの人権を守っていくということなんです。女性の社会進出が進む中でもなお、家事、育児、老人の世話、女性の肩にかかっているのが現状です。その結果として、手のかかる料理よりも簡単なものの育児にしても、ゆったりした育児はとても難しい。そのことが幼児の虐待、放棄、過保護になったり、少子化という現象

にもなっています。老人の世話に関しては、愛情のうすい義務感だけの世話、核家族への願望、これらの現象が起きてくるのも当然だと思います。心の入っていない、とてもさびしいことです。

そこで、男性の家事、育児などの分担が強調され、社会的支援の見直しと充実がさげばれていきます。さらに、女性に関するあらゆる差別をなくす『女性差別撤廃条約』また、子どもの生存と発達を権利として保障しようとした『子どもの権利条約』が、国連でとりあげられました。高齢者のゴールドプランの実施、障害者の社会参加もありますが、前の二項目について特に強調されています。

二つ目として、『理想的な家族像はつくりたい』ということなんです。

「頼もしく経済力のある父、優しい母、その両親に温かく守られている子ども達」これは長い間、理想的な家族像として言われてきました。しかし、社会の変動に伴って、子どもを生む生まないの選択にはじまり、子どものいる家族、いない家族、大家族、核家族、父子家庭、母子家庭など、多様化してきました。これら、様々な形態の家族

各種大会成績

第10回高齢者ゲートボール大会

(10/17 緑ヶ丘公園)

①和合A ②栗木沢 ③前田沢・太郎

町民将棋大会

(11/6 中央公民館)

・Aクラス

①武田光雄(栄町) ②松本則雄(常盤)

・Bクラス

①五十嵐修一(栗木沢) ②小野康仁(大谷六) ③清野権蔵(四ノ沢)

第6回北部地区婦人ビーチバレーボール大会

(11/6 北部体育館)

①クリスタルレッド(大谷五)

②お笑いパワーズ(中沢) ③大谷一の(大谷一)



を全て受け入れようとするものです。変動する社会の中で、多様化するの当然であり、理想的な家族像があるからこそ、そこから外れる家族は、『問題家族』として特別視されがちです。例えば離婚した家族は、『欠落家族』、『欠損家族』などと呼ばれることもあり、その子どもは、『歪んだ』あるいは『非行に走りやすい』などと、レッテルをはられてしまうこともあります。しかし、こうした社会の目がかえって、ひがんだり、いじけたり、時には、自らの責任を他に転嫁してしまうことにもなりかねない、といわれています。某氏は「子どもが育っていく上で、環境の違いは大きな影響力となるが、与えられた条件の中でしか生きていくことができない。それは、それぞれの子どもの個性となるものである」と言っています。その言葉に私は、ショックを感じました。なぜなら、今までは子供の成長に理想像をかかげ、環境を整える必要性だけを考えていました。しかし、子どもが自分らしさを出して堂々と生きていけるよう、温かく見守り応援していくことが、周囲の人々の役割だと思おうようになりました。

改めて家族年のスローガン

を考える

昔、大半のお嫁さんは子孫繁栄、働き手のためにだけ嫁ぎ、そこでは、人権などとは無関係に、舅・姑（しゅうと、夫に仕えるだけの生活だったと聞きます。

今は個人の意志が優先されるのです。物が豊かで便利になり平和なはずなのに、不登校、い



家族全員が集いお母さんを応援、温かい家庭がうかがえる
(北部地区婦人ビーチバレーボール大会)

じめ、高齢者問題、嫁姑の問題等の現実には『なぜ?』と思わざるをえません。

十月十九日、幼い子どもの目の前で、夫が妻を刺し殺すというニュースがありました。理由は、妻が夫の自由にならないからとのこと。人権を無視すると殺人にまで至ってしまうという、まさに現代の社会が生んだ悲劇です。

『人権を守る』ということは、他人の人権と同時に、自らの人権も守るということです。現代

はどちらかというと、自らを守る、自分を主張することの方が強いような気がします。これでは本当の民主主義とはいえません。民主主義を確立するには、家族の一人ひとりが、人の意見を聞き、自分の意見も発言し、物事を解決することです。「子どもはだまってる」と言われたり、言った経験もあると思いますが、先にのべた『子どもの権利条約』の中には『意見表明権』として、条文化され保障されています。

何年か前までは、あたたかい食卓を囲んだ場面が、テレビのホームドラマの象徴でした。また、どこかの家にも、いろいろあった時代は、赤々と燃え上る火を囲んだ、なごやかな場面がありました。ちなみに、親子の対話がなくなったのは、いろいろがなくなった時からと、聞いたことがあります。今、家族といえど、どんな場面を思いうかべるでしょうか。家族全員が集い、話し合える場を、それぞれの家族が持ち味を生かして、工夫する必要があります。と思います。

子どもが、民主主義の精神を身につけて成長していくことは、なんとすばらしいことではありませんか。

(教育広報委員 松田吟子)



●町社会福祉協議会へ寄付

・山形市在住の若柳由美香さん(長沼出身)より、五万円をいただきました。

・日本舞踊の朝日柳香会(代表若柳由美代さん)より、五万円をいただきました。

・朝日町繊維製品納入組合よりトレーニングウェア(上着十九着・ズボン十六着)をいただきました。

・朝日中学校一年一組のみなさんより、学校祭バザーの益金三万一千四百四十三円をいただきました。

・元町の渡辺滝子さんより一円玉で千三百五十九円をいただきました。

・福祉協議会内に設けられている福祉施設基金に、町長寿クラブ連合会より十八万七千三百百円、民生児童委員協議会より三万七千円いただきました。これによって、基金の総額は二百七十一万七千七百二十四円に達しました。

ありがとうございました。



すこやかに

(出生届)

区名	出生児氏名	父名
助ノ巻	布施智基	茂美
長沼	海野	秀夫
大谷四	松田	秀明
小原	佐藤	和春
沼向	菅井	弘行
松程	阿部	孝晴
大谷四	東海林	良
太郎三	阿部	真里奈保



おしあわせに

(婚姻届)

今井幸彦	那須千香子
前田沢	寒河江市
阿部勝利	阿部春美
常盤	立木
長岡裕樹	布施絵美子
太郎三	山形市



やすらかに

(死亡届)

区名	死亡者氏名	世帯主
四ノ沢	清野四郎	清美
栄町	大場實	健一
常盤	長岡朔次郎	憲夫
大町	高橋孝二	久仁彦
大滝	柴田作太郎	克巳
常盤	長岡彌藤治	誠一

人口と世帯数

●平成6年10月31日現在

人口	10,099(減8)
男	5,025(減3)
女	5,074(減5)
世帯数	2,521(減1)

() 内前月比

町の花



〔ヒメサユリ〕

S49. 11月制定

ユリ科の多年草で町内の山地に多く見られ、朝日連峰の代表的な高山植物です。厳しい風雪に耐えながら、初夏には可憐なピンクの花が咲きます。

町の木



〔ブナ〕

S49. 11月制定

広葉落葉樹の代表的な木であり、朝日連峰とは切りはなすことのできない樹木です。豪雪、厳寒の中でも雄々しく成長し、春には雪の中から新緑の芽を出します。

町の動物



〔カモシカ〕

S59. 11月制定

正式名はニホンカモシカと呼ばれ、ウシ科の草食獣で朝日連峰に多く生息しています。厳しい環境にもめげずたくましく生きる姿は、私たちに感動を与えます。

町の鳥



〔ヤマガラ〕

S59. 11月制定

シジュウカラ科の小鳥で、町内の山林に多く見られ、樹木の穴の中に巣をつくります。澄んだ鳴き声、整った容姿などの特徴をもつ野鳥です。

春 夏 秋 冬

編集後記

多く使い、見やすく分かり易いようにと編集してみました。
▼十一月三日の文化の日には、町芸術文化祭が行われ、さっそく取材に。民謡や踊り、コーラスなど、日頃から芸術・文化に親しみ、技を磨いているみなさんの発表がありました。体育館いっぱい展示された絵画や書なども見事な作品ばかりで、さすが「生涯教育・学習の町あさひ」と感激しました。(安藤)

▼朝日町が今年十一月一日で、四十歳になりました。昭和二十九年の「町報あさひ第一号」には、「十一月一日高らかに前途の祝福を奏でつつ、その名も『朝日町』として発足した」と町誕生の様子が記されています。
このたび四十周年という節目を迎え、今月号は朝日町誕生四十周年を特集しました。これからの町づくりや人々のため、歩みを振り返るため、写真を